



JACET通信

社団法人 大学英語教育学会

December 2009

The Japan Association of College English Teachers

No.172

目次

巻頭言（森住衛）	1頁	本部便り	9頁
海外提携学会から～（RELC）	2頁	社員総会議事録	9頁
特色ある大学英語教育プログラム（中部大学）	4頁	支部便り	17頁
私の授業紹介（ムーディ美穂）	6頁	委員会からのお知らせ	23頁
研究会紹介（国際英語と異文化理解研究会）	7頁		

[巻頭言]

創立 50 周年記念関連の 4 つの事業

JACET 会長 森 住 衛
桜美林大学

本誌 169 号では本学会の「中長期的な課題」を取り上げましたが、本欄では、近未来の活動として学会創立 50 周年記念関連の 4 つの事業についてお知らせいたします。その 4 つとは「英語教育学大系 13 巻」の出版、国際大会の開催、記念誌の刊行、寄付の公募です。「英語教育学大系」については本誌で報告もして、活動も始まっていますが、先般の 9 月の臨時理事会では 50 周年記念関連事業としてまとめて確認・内定し、これを会員総会で報告しましたので、本欄でもこれら 4 つの事業を合わせての報告やお願いをさせていただきます。

50 周年記念刊行事業

すでにお知らせのように、学会創立 50 周年を

記念して、大学英語教育学会編「英語教育学大系」全 13 巻を大修館書店より出版します。2 年前に岡田伸夫副会長を委員長として、各巻の責任編集者の連絡係を委員とする委員会が設置され、現在、各巻の執筆に入っています。来年の 1 月の第 1 巻「大学英語教育学—その方向性と諸分野」を皮切りに、3 月の第 10 巻「リーディングの理論と実践—英語を主体的に読む・書く」というように、順次刊行していったら、2011 年の 9 月までに全 13 巻を完結する予定です。それぞれの巻の内容の底流にある視点は、理論・実践、総論・各論、過去・現在・未来、不易・流行などです。近々のうちに、雑誌『英語教育』に刊行案内が掲載されます。当初からの経緯や 13 巻の内訳などについては、本誌 168 号の岡田委員長の報告をご覧ください。

第50回記念国際大会

JACETの50回目の記念大会を2011年8月30日-9月2日に西南学院大学で開催します。大会テーマは、'Challenges for Tertiary English Education: JACET's Role in the Next Fifty Years' (英語教育への新たなる挑戦—JACETのこれからの50年)です。現在、委員長の神保尚武副会長のもとに、担当支部の九州・沖縄支部を中心に、準備委員会が設置されています。すでに数人の基調講演者が内定し、来年の春にはFirst Circularが出ます。基本方針として、通常の全国大会より規模を多少大きくする、国際大会と銘打つ、英語での発表を原則とする、海外からの講演や発表を多くする、上記の「英語教育学大系」の各巻のテーマでシンポジウムの企画を試みるなどが決まっています。英語での発表については、本年度の大会から積極的に取り入れて、2年後への備えが始まっています。

50周年記念誌

JACETは、10年ごとに記念誌を編集し、その歴史の「一里塚」としてきています。今回は半世紀の区切りですので、ページ数も30周年や40周年のときよりも多少とも大部にします。ちなみに40周年記念誌は123ページ(広告ページ含む)でしたが、今回は150ページほどを予定しています。内容は、主として40周年以降の足跡をたどることになりますが、50周年という大きなラウンドナンバーの号ですので、多少は創立時代からの40年も振り返ります。この秋に白寿になられた本学会名誉会長の梶木隆一先生をはじめ、顧問や前・元支部長の方たちにもご寄稿いただく予定です。また、向後50年を見据えて、30代、40代の若い会員のみなさんにも将来のJACETを語っていただきたいと思っています。本年度末の定例理事会・社員総会で担当理事と委員長を決めて、新年度から活動が始まりますので、よろしく願っています。

50周年記念寄付事業

上記の3つを中心とする事業の財政的補助を目的として寄付の公募を実施します。JACETとしては、1999年のAILA(国際応用言語学会)東京大会以来の寄付事業となります。今回はこれよりも規模も小さいものですが、広く会員のみなさんの

ご協力を得られればと願っています。9月の臨時理事会で、素案として、募金方法、対象、時期などが提案されています。たとえば、一口を3000円か5000円にして、役員には口数を相談する、募金期間2010年5月-11月などです。今後、これらの検討を重ねて、本年度末の理事会・総会で決定し、新年度から具体的な活動を開始しますので、よろしく願っています。

以上、創立50周年記念関連の4つの事業に関してその概要を報告しました。この4つの事業とも、12月の支部長会議や来年3月の定例理事会や社員総会で確認や決定をしていきます。先に述べましたように「英語教育学大系」はすでに執筆などが始まっていますので、今後も関係のみなさんの一層のご尽力とご協力をお願いいたします。国際大会、記念誌、寄付事業の3つは企画の素案が固まりつつある段階です。質問や意見あるいは要望がありましたら、本部及び各支部の事務局にお寄せください。



Dr. Chan Yue Weng, the Head of Training, Research, Assessment and Consultancy Department (TRAC) of SEAMEO (Southeast Asian Ministers of Education Organization), Singapore was an invited speaker at the 47th JACET Annual Convention, 11-13 September 2008 at Waseda University, Tokyo, Japan. Here's an excerpt of an interview with him.

The Regional Language Centre (RELIC) established in July 1968 is an educational project of the Southeast Asian Ministers of Education Organization (SEAMEO). It is located in

Singapore. The members of SEAMEO are Brunei Darussalam, Cambodia, Indonesia, Lao People's Democratic Republic, Malaysia, Myanmar, the Philippines, Singapore, Thailand, Timor-Leste and Vietnam. Its associate members are Australia, Canada, France, Germany, the Netherlands, New Zealand, Norway and Spain.

RELC is an autonomous international institution administered by a director under the overall policy direction of the Governing Board. The Board is comprised of one representative from each country appointed by the Southeast Asian Ministers of Education Council on the recommendation of the Minister of Education of each country.

SEAMEO RELC is dedicated to the development of language teacher education and promotion of international cooperation among language professionals in the region. The main mission of SEAMEO RELC is to provide leadership in the development of expertise and excellence in the field of language education. It also strives to promote cooperation between and contact among language professionals in the region and beyond through the teaching of English.

SEAMEO RELC offers both teacher training and language proficiency courses. Teacher training courses range from certificate to masters levels. Certificate courses include the popular 3-week specialist certificate courses in language testing, action research, curriculum design and oral communication skills training. Postgraduate diploma courses include the 4-month Postgraduate Diploma in Applied Linguistics and the Distance Education Postgraduate Diploma in TESOL. Master programmes include the Joint RELC-NUS (National University of Singapore) MA in Applied Linguistics and the Joint RELC-Curtin, Australia MA in TESOL. In fact, RELC also jointly conducts a postgraduate programme with Wasada University, Japan. In addition, RELC also customizes courses for language teachers depending upon their training needs.

SEAMEO RELC offers scholarships to many inservice English teachers of its member

countries. The benefits of studying at RELC are the rare opportunity to study and meet participants from different countries, enjoying the facility and services of one of the best applied linguistics library in the region and the added value of a one-stop learning centre where participants study and live under the same room as RELC has its own 3-star hotel, the RELC International Hotel.

RELC also offers a wide range of language proficiency courses ranging from general proficiency courses to specific purpose courses. Every year, Chukyo University sends two large groups of its undergraduates to RELC for summer language improvement courses.

RELC holds an international seminar every year which brings together applied linguists and language practitioners from the region and beyond to share and deliberate on issues and challenges in language teacher education. For example, the conference theme for next year is "The Impact of Technology on Language Learning and Teaching: What, How and Why."

Another contribution of RELC to the region is through sharing and dissemination of research and new ideas via its own publication. Dr Chan is currently the editor of the RELC Journal, an international refereed journal of language teaching and research which has three publications in a year. Other publications include the Portfolio Series, the Anthologies and the



Dr. Chan Yue Weng in the middle

Grammar Matter Series.

The success story of English education in Singapore is unique as English has the status of a first language and is the main medium of instruction for all subjects starting from primary to tertiary education.

RELC looks forward to more significant and viable collaborations with Japan in both language teacher education and language proficiency projects.

(Reported by Yukie Endo, editor)

特色ある 大学英語教育プログラム

中部大学英語英米文化学科
塩澤正 松原勝子

たくましい地球市民を育てる 「全員留学」プログラム

はじめに

中部大学英語英米文化学科では、全員の学生が約4カ月間、アメリカもしくはオーストラリアの大学に留学する。これが本学科の大きな特徴である。そこで、今回はこのプログラムの概要とその成果を中心に述べさせていただきたい。

全員がアカデミッククラスを履修

アメリカのオハイオ大学とオーストラリアのニューイングランド大学の2校を受け入れ大学として、2年生を3グループに分けて、4ヶ月の研修を行っている。このプログラムは、英語運用能力の向上を図るだけでなく、異文化理解や、「たくましい地球市民」を育てることを目的としている。学生は、このプログラムを通して、ESLの授業のみならず、現地の大学生と共に専門科目を履修することができる学習環境におかれる。

長期海外研修の内容の最大の特徴は、アカデミッククラスを履修できることである。授業にはESLの教員と一緒に参加して、その復習、予習を

するSupport Classが開講されている。これにより、英語力が十分でない学生でも現地学生と一緒にアカデミッククラスを履修することが可能となる。究極のcontent-based classと言えよう。

プログラム内容としては、週に約15～20時間の英語学習と、4時間のアカデミッククラス、2時間のアカデミックサポートクラス、2時間のスポーツ、3時間程度のアメリカ・オーストラリア文化体験学習からなる。オーストラリアでは、これに2時間のプラクティカルセッションと呼ばれる専門ゼミが加わる。このうち、アカデミッククラスと専門ゼミとスポーツは、現地の学生と全く同じものを履修する。基本的に現地学生と同じ試験や課題が要求されるため、想像を超える学習量が要求されることとなる。しかし、まさにそれがこのプログラムのねらいであり、学生たちの英語力を飛躍的に伸ばす仕組みである。サポートクラス以外にも、学生の学習を助ける数名の現地学生のアシスタントがおり、課題などの質問を常時、食堂や図書館でできることになっている。この2重、3重のサポートシステムが、このプログラムを支えている。文化体験学習は、毎週小学校を訪問し、1学期間を通じて、自分のパートナー（小学校2年生）に、日本の習慣、遊び、歌などを教える。もちろん、教えるより教わる部分の方が多いことは言うまでもない。

事前・事後準備

出発前の学生の士気を高め、途中で挫折しないための能力や態度を身につけさせ、留学に送り出すことが大切である。このための必修科目として「異文化適応入門」がある。ここでは、現地の生活に関する情報以外に、情意や行動のレベルでの異文化適応能力をつけさせるための、異文化適応訓練を提供している（『高等教育における英語授業の研究（DVD収録 JACET授業学研究会編）』で紹介）。

「異文化適応入門」のみならず、一年次の全ての科目がこの留学の成功に向けてプログラムされている。一年次よりネイティブスピーカーによる英語での講義課題を開講し、Literacy/ Oral strategies クラスと称する授業では、1年後の留学に対応すべくアカデミック英語を中心にシラバスが組み立てられている。英語でのレポートの書き方の指導や「フレッシュマンゼミ」での剽窃に

対する15時間(5日間)の帰国後オリエンテーションでは、逆カルチャーショックの対処法や今後の英語学習への動機付けを中心に日本への再適応訓練をする。また、約3000字の分量の体験談の報告を求め、毎年、200ページの『私たちの異文化体験』が出来上がる。この全てを終了した者に、最大22単位まで単位読み替えをしている。単に単位の認定ではなく、S,A,B,C,Fと評価を与えることは、学生の努力への敬意である。

「自律学習者」を作る工夫

留学プログラム以外にも常時英語の学習環境を維持するために、いくつかの工夫がある。英語英米文化学科専用の「マルチメディア教室」は常時学生に開放し、学部生、大学院生がアシスタントとして常駐し、「自律学習者」を養成すべく運営をしている。また、留学生ネイティブスピーカー達と昼食をとる「English Table」を運営している。単に英語で会話する以外にも、ここで課題の添削を受け、学習についての質問をすることもできる。さらに、上級生が下級生を指導する「メンター制度」があり、レファレンスルームで、常に先輩に

留学の不安や課題などについて相談することができる仕組みになっている。また、英語運用能力の客観的な基準として、TOEICの受験を義務づけ、各学年における英語運用能力の目標値を設定している。学生には、毎年最低1回、卒業までに6回の受験を義務づけている。その最終目標はTOEIC 730点である。またこれは、目標値にとどまらず、必修科目と連動し、進級や卒業に間接的に関わってくる。

プログラムの成果

英語運用能力については、過去5年間で毎年平均点を確実に上げていく。英語で生活し、学び、現地学生や他の海外留学生達と同じ基準で試されるという貴重な学習体験が、知的刺激となるとともに、それを乗り越えて単位を取得したという事実が大きな自信になる。留学前後の英語力はTOEICでは平均で70～100点アップする。一挙に200～300点を上げる学生も少なくない。また、入学者のそのほとんどがこの「長期海外研修」を目指して入学しているようになった。全員留学は大きな投資だが、それに十分見合う教育的、経営

広 告

的効果があることを理解し、参加費の半額以上を負担する中部大学に感謝するのみである。

私の授業紹介

名古屋外国語大学（非）
ムーディ美穂

現代国際学部のOral Communication Strategy (OCS) では、テキストのトピックについて話し合う他、会話をより自然に行うことを助けるstrategyの習得にも重きが置かれている。例えば、本題に入る前のsmall talkや相手を傷つけることなく反対意見を言うための表現などである。しかし、small talkを行い、さて本題について話し合う時点になると、なかなかうまく会話が進展しない。限られた時間の中で、学生にできるだけ多くの発話を行わせ、相手の言うことにも呼応させてゆくために教師は色々工夫する必要がある。そのためのツールの一つとして、ドラマ的要素を使ったアクティビティを紹介する。

英語教育の場においてドラマを使用する理由は、その本質の一つ、「Put yourself into someone else's shoes」—自らを架空の状況に投げ込むことによって、演者（学習者）が、より深い学び（言語習得）を得るということであろう。上記のように、ディスカッションがなかなか活発にいかない場合、生徒は必ずしも考えていないわけではなく、言いたいことが漠然としていて、はっきりとした自分の考えとして述べるができない、ということが多い。ロールプレイの要素を持ち込むことによって、学生はただ「話す」のではなく、当事者として思う事を相手に伝えていく。「当事者ではあるが、他人」という状況がより物事を客観的に見せ、自由に意見を言わせるのではないかと考える。

以下に授業手順を説明する。まず教師はトピックに即して仮の状況を設定する。ここでは以前授業で取り上げた「同性愛」を例にとる。学生はペアとなり、役柄A、Bが与えられる。Aを親、Bを子とし、例えば「親元を離れて暮らしている子供

が、話があるということで久しぶりに帰ってくる。子供には同性愛のパートナーがおり、一緒に暮らすための資金を親に借りたい。親は子供が同性愛者であることは知らない」などの場面を与える。次に、役の年齢、社会的地位などプロフィールを生徒自身が決める。予め項目—A（親）のバックグラウンド、仕事、趣味、年齢—などを与えると良い。これによって、生徒は演じる役に自分を近づけていき、自分がその状況にいる場合のよう感じるか、具体的に考えていく。それらが決まったら、今度は子供との関係、子供にどのようなことを期待しているか、そして同性愛に対する考え方を決める。これに対しB(子)は、どのようにパートナーとなる人と出会ったのか、どのような相手か、同性愛者として今後どう、生きて行くつもりかを考える。学生は項目に答えた後、それぞれのミッションをはっきりとさせる。子は、親に自分が同性愛者であることを伝え、納得させなければならない。親は、子供がどの程度真剣なのか見極め、子供が同性愛者であることを認めるのか、資金を貸すのかどうかを決める。英語の説得表現も準備する。そしてもう一つ忘れてはならないのが、いわゆる舞台設定である。二人はどこで会話をしているのか。夕食後のテーブルか、リビングでお茶を飲みながらか、そして話はどちらから切り出すのか。これは一見ささいなことのように思われるが、会話を自然に始める為不可欠であり、又、この場で先に学んだstrategyが生きてくる。

これらを話し合っただけで、いよいよ実際のロールプレイに入る。時間は約10分、ディベートではないので、結論が出ずに物別れに終わっても良いが、きちんと話をまとめて終了する。その後、もう一度ペア同士で話し合い、ストーリーとしてつじつまの合わなかったところ、言いたいことがうまく英語で表現できなかったところなどを書き出してみる。語彙や表現を補い、確認した後、再度ロールプレイを行う。パートナーをかえて行っても良い。その場合、親、子として自分の立場は同じであるが、今度は違うプロフィールを持った相手にミッションを試みるわけである。これを授業中、2、3回繰り返して、自信のありそうなペアに皆の前で発表してもらおう。発表はもちろん強制するものではないが、人前で発表すること、他人の発表を見ることは、授業に良い緊張感を与える。発表をしないペアは安心してよいわけ

ではなく、次回の授業では全員が会話の様子を録画しなければならない。名古屋外大には二人ずつのブースで会話の授業を録画できる専用のSpeaking Laboratoryがあり、OCSの2年生以上の学生は半期に2、3回、自分たちが会話の様子を録画し、テープを起こして原稿を提出することが義務づけられている。これにより、学生は言語・内容の面から自らをモニターすることになる。

生徒からの感想には、「ゲイにも結婚する権利が必要と思っていたが、もし本当に自分の子供がそうになってしまったらどうしようかと思った」、「自分たちでストーリーと（英語の）表現を作るので忘れない」といった内容に関する事、言葉の習得に関する双方があった。ロールプレイ中はディスカッションの様子も活発である。これはミッションを与えられた事で、発話の動機が増えるためと思われる。録画し、書き留める事は言葉の定着を促す。ドラマを使ったこれら一連のアクティビティはディスカッションのツールとして有効なやり方ではないかと思っている。



研究会紹介

国際英語と異文化理解 研究会

代表 吉川 寛・中京大学

「国際英語と異文化理解研究会」は2002年に中部支部会員を中心に発足した「異文化理解研究会」をベースとする研究会であり、2009年度より現在の名称へと変更されました。異文化理解の問題と英語教育を結びつける上で国際英語の視点が極めて重要であるという認識がメンバー間でのよいよ深まったことや、その結果として国際英語と関連づけた異文化理解研究の比率が高まったこと、などがその背景にはあります。現会員数は5名（さらに1名参加予定）であり、現在は主に異文化理解能力と国際英語の理念が英語教育に与える有効性の検証についての研究活動を続けています。

原則として毎月の月例研究会を開催して活発な議論を行い、研究計画の策定や見直し、個人研究の中間発表とそれに対する意見交換、その他の情報交換により、研究課題に対する相互理解を深め、明確な研究成果に結び付けることをめざして活動を行っています。

JACET内での活動としては、全国大会や支部大会・支部の定例研究会などにおいて個人発表やシンポジウム発表などを行うとともに、支部紀要への投稿などを実施しています。2005年、2007年、2008年のJACET全国大会では研究会によるシンポジウムを行い、聴衆からも肯定的な評価の声をいただきました。その他の学会でも個人発表などを行っています。

また、国際学会における研究発表なども精力的に実施しており、2002年のAILAシンガポール大会では会員2名が研究発表を行ったほか、IAWE (International Association for World Englishes) の世界大会においても継続的な研究発表を行ってきました。2004年の第10回大会（米国、シラキュース大学）や2005年の第11回大会（米国、パデュー大学）では1名あるいは2名による発表でしたが、2007年の第13回大会（ドイツ、レー

ゲンズバーク大学)と2008年の第14回大会(中国、香港城市大学)では会員全員が個人研究発表を行っています。今年(2009年10月)の第15回大会(フィリピン)にも4名が参加し、うち2名が個人発表を行いました。国内外での活動を通して研究ネットワークが広がり、先端的な研究者から最新の情報を得られることの刺激と魅力は会員にとって非常に大きなものとなっています。

本研究会では研究助成金の獲得にも成果を上げています。平成17年から19年の3年間に課題名「日本人英語が国際的に通用する要素は何か—国際英語と異文化理解の観点から—」で科学研究費補助金を受け、研究成果報告書をまとめています。また、現在も課題「国際英語論が日本人の英語学習に与える教育効果について」で平成19年から3年間の科研費補助金を受け、研究分担に基づいて各人が研究活動を進めているところです。

「英語が使える日本人」の育成という課題が文科省から出されて以来、英語コミュニケーション能力の獲得に直結する指導が一層明示的な形で大学英語教育に求められることとなりました。しかし、英語を道具として使うコミュニケーションと

はどういう状況を指すのか、そもそもコミュニケーションにはどんな要素や側面が介在するのか、また、グローバルなコミュニケーションにおいて「どのような英語」を「どのように」使うのかなどが問題となります。本研究会の会員にとってキーワードとなるのがまず「異文化理解」の概念でした。外国語を使用しているコミュニケーションには、言語的なスキルは勿論のこと、その言語の背景にある当該文化の理解も同様に重要であり、それぞれの文化を相対的に受容する視座が求められているといえます。英語使用において異文化対応能力は同時に求められるものであり、英語教育と異文化理解が不可分の関係にあることは明瞭です。

また、英語そのものがグローバル化する中で、様々な文化が用いる英語変種を相対的で平等な視座の中で捉えようとする「国際英語」の考え方も極めて重要なものとなっています。英語の言語人口は今や20億とも言われ「国際共通語」とも呼ばれており、英語使用者数で見ると、非英語母語話者が英語母語話者の数倍に達しています。現実に、日本人が英語でコミュニケーションをしなけ

広 告

ればならない場合、その80%は非英語母語話者を対象としており、耳にする英語も、非英語圏の夫々の国や地域の文化に味付けされたその文化固有の英語変種となっています。英語はもう英語圏だけの言語ではない、という考えが国際英語の理念であり、本研究会の研究姿勢でもあります。



2007年10月5日ドイツ レーゲンスバーグ大学にて

本部便り

代表幹事 笹島 茂・埼玉医科大学

この秋は社団法人としてのJACETにとって最も重要な会長選挙が実施されました。投票にあたってはご協力どうもありがとうございました。開票結果の詳細は下記の通りです。会員一人ひとりの支援が一層必要となりますので、各支部での理事、幹事、社員の選出などの際には今後ともどうぞ協力お願いいたします。

会長選挙速報

11月19日(木)、選挙管理委員(笹島茂、尾関直子、渡辺敦子、上田倫史、下山幸成)5人でJACET事務所にて開票し、11月21日(土)の運営会議において下記の結果を報告しました。

投票総数	884
有効投票数	881
無効投票数	3
結果(アルファベット順)	
神保尚武氏	499票
岡田伸夫氏	374票
無効	8票

また、来年度の全国大会は、9月7日(火)から9日(木)まで仙台の宮城大学大和キャンパスで行われます。今年度の大会から英語による発表を徐々に増やす方向で運営委員会を中心に組みんでいます。今回から発表応募もウェブからとなります。多少の戸惑いがあるかもしれませんが、事務処理などの簡便化にご協力ください。

さらに、その翌年の2011年8月30日(火)から9月2日(金)には、第50回記念国際大会が福岡の西南学院大学で実施される予定です。JACETにとっては1999年のAILA以来の重要なイベントとなります。まもなくファースト・サーキュラーが発行され概要が明らかになります。ただいま準備委員会を中心に大会の具体的な内容を決めています。寄付などをお願いすることになります。会員の皆様には一層のご協力をお願いいたします。

その他、特別委員会や研究会活動も活発になっています。たとえば、第3次実態調査委員会が総務委員会のメンバーを中心に活動を始めています。いままでとは違う未来志向の調査を計画しています。また、50周年記念刊行事業委員会の努力により、いよいよ各巻の発行が順次始まる予定です。ご期待ください。

遅くなりましたが、2009年度社員総会議事録、2008年度事業報告、2008年度収支計算書を掲載します。大会特集号の会員総会報告で掲載した2008年度任意団体としての収支決算計算書と併せてご覧ください。

社団法人大学英語教育学会 平成21年度第1回社員総会議事録

日 時：平成21年6月21日(日)

13時00分～14時00分

会議場：東京都渋谷区渋谷4丁目4番25号

青山学院大学第13会議室(15号館5階)

出席者：24名(出席者名簿別添)

委任状：委任状出席者 84名(委任状出席者名簿別添)

定足数：出席者数合計 108名。よって『定款』第32条の規定の定足数以上を充足

陪席者：役員23名(うち委任状出席者7名、役員名簿別添)、(事務局次長)荒川明子

議 長：笹島茂

副議長：尾関直子、渡辺敦子
書 記：尾関直子、渡辺敦子
議事録署名：尾関直子、渡辺敦子

I. 開会

寺内一総務担当理事より総会の開催の宣言がなされ、総会成立要件を満たす出席者数（委任状を含む）であることの確認及び会議の資料の確認が行われた。

II. 議長を選出

議長に笹島茂氏、副議長に尾関直子氏、渡辺敦子氏（3名とも社員）が推薦され、異議なく選出された。

III. 議事録署名人選出

議長が、議案審議に先立ち、議長の他の議事録署名人2名について、尾関直子氏と渡辺敦子氏の両名を指名し、承認された。

IV. 会長挨拶

森住衛会長より、参集の御礼と共に、以下の2点を中心とする挨拶があった。

- ・本社員総会を第3回関東支部大会期間中に開くことに関東支部に対するお詫び
- ・第1号議案「平成20年度の活動報告・決算報告」がこの時期に審議されることの意義

V. 議事

第1号議案 平成20年度事業報告・収支決算

1. 平成20年度事業報告

寺内一総務担当理事より説明があり、下記1～5号事業がすべて承認された。

- (1) 1号事業 大学英語教育、言語教育関連の研究理論の発表及びその実践結果の報告のための大会、セミナー等の開催

社団法人大学英語教育学会設立時に承認された平成20年度事業計画の通り実施

- (2) 2号事業 紀要、学会誌等の出版物の刊行

紀要、JACET通信など平成20年度事業計画の通り発行

- (3) 3号事業 大学英語教育に係る国内外の研究者・学術団体・諸機関の実践活動に対する表彰及び協力

社団法人大学英語教育学会設立時に承認された平成20年度事業計画の通り実施

- (4) 4号事業 大学英語教育及び言語教育関連の理論及びその実践方法に関する調査・研究

ICT調査研究、研究会活動など平成20年度事業

計画の通り実施

- (5) 5号事業 その他この法人の目的を達成するために必要な事業

平成20年8月15日に正式に社団法人大学英語教育学会となったため、必要な会議を開催

- (6) その他

会員異動状況について説明があり、承認された。

2. 平成20年度決算

見上見財務担当理事より決算報告があり、承認された。

続いて、田中慎也専務理事より椿忠男、矢田裕士両監事に代わり監査報告があり、承認された。

第2号議案 50周年関連事業

1. 第50回記念国際大会準備委員会

寺内一総務担当理事より、期日、テーマ、招待講演者等が確定している旨の説明があり、承認された。

2. 50周年記念刊行事業委員会

岡田伸夫50周年記念刊行事業委員長より、記念刊行事業である「英語教育学大系」（全13巻）刊行の財政的裏付け、各巻の責任編集者による編集体制、各巻の執筆者選出方法、各巻の刊行スケジュール等に関する説明があり、承認された。

3. 50周年記念誌

森住衛会長より、50周年記念誌は平成24（2012）年大会時に刊行予定であるとの説明があり、承認された。

4. 50周年記念寄付事業

森住衛会長より、寄付事業を平成24（2012）年の50周年記念に向けて本年度中に立ち上げ、委員会構成や寄付金の目標額を考えていきたい旨の説明があり、承認された。

第3号議案 基本財産の運用

田中慎也専務理事・事務局長より、基本財産の運用方法について専門家にも事情を聞き、五役（正副会長、専務理事、常務理事）及び運営会議で検討した結果、銀行に定期預金（5年もの）として預けるという提案があり、承認された。

第4号議案 役員等の選出

寺内一総務担当理事より、理事選出枠の配分と基本方針について説明があり、大筋において承認された。また、社員選出基本方針についても説明があり、承認された。なお、理事選出の基本方針の一部の詳細については、9月の臨時理事会で審議することとなった。

第5号議案 中・長期的な将来課題

森住衛会長より、学会の今後2～3年から10年後を見据えた中・長期的な計画を考えたいとの説明があり、下記6件の具体的な課題が示され、了承された。また、「JACET通信」169号の巻頭言でも、この件について言及しているとの説明もあった。

1. 今後の公益化への考え方

公益社団法人と一般社団法人のどちらを選ぶべきなのかについて慎重に検討する。

2. 関係諸分野・諸機関との連携の強化

国内外の学会及び関連諸機関との縦軸と横軸の連携・協賛を進め、今後の学会活動の輪を広げていく。

3. 会員増強

今後さらに会員増加の努力をする。特に、英語母語話者など日本語母語話者以外の会員、大学院生などの若い世代の会員を増やす。

4. 英語能力試験の開発

日本人が習得すべき英語能力とは何かについて考え、日本独自の、そして、学会独自の英語能力試験を作成したい。

5. 大学英語教員の養成と身分保障

大学英語教員の身分保障（特に非常勤講師の身分保障）について学会としても検討していきたい。

6. 事業・活動のさらなる見直し

今後、若い世代の会員が積極的に参加できるような大会、紀要にするために、抜本的に見直していく。

第6号議案 その他

50周年記念刊行事業に関して、小張敬之社員から責任編集者の選び方について質問があり、岡田伸夫50周年記念刊行事業委員長から経緯、過程などの説明があった。

VI. 閉会

以上をもって、社団法人大学英語教育学会平成21年度第1回社員総会の議事を終了したので、議長が閉会を宣言した。

平成21年6月21日

社団法人大学英語教育学会

平成21年度第1回社員総会

議長 笹島 茂

議事録署名人 尾関 直子

議事録署名人 渡辺 敦子

平成21年6月21日 平成20年度事業状況報告書

定款第5条第1項の(1)から(5)に掲げる平成20年度の事業計画実施概要の報告は下記の通りです。

記

1号事業報告：

(1) 全国大会の開催

平成20年9月11日から13日まで早稲田大学(東京)において、「グローバルな英語コミュニケーション能力とは—英語教育再考—」をテーマに第47回全国大会を開催した。参加者数890人。基調講演3件、特別講演2件、海外提携学会代表による招待講演4件、シンポジウム12件、ポスターセッション5件、ワークショップ3件、賛助会員発表5件、研究発表42件、実践報告30件等、盛会な大会であった。

会員には、11月に刊行した『JACET通信大会特集号』にて全体報告と、基調講演、全体シンポジウム等に関する報告を行い、全国大会で披露された研究成果や知見を広く知らしめ、研究者の研究活動推進に資するものとした。

(2) サマーセミナーの開催

平成20年8月20日から23日に、国立大学法人等協働利用施設草津セミナーハウスにおいて、「言語教師の成長への展望、Perspective on language teacher development」をテーマとして第36回サマーセミナーを開催した。参加者50人。英国リーズ大学からサイモン・ボーク教授を招聘し、応用言語学の最新の研究について学び、また参加者による発表も行なわれ有意義な研鑽の場となった。講演と発表内容についての成果は『プロシーディングスNo.8』として刊行した。

(3) 春季セミナーの開催

平成21年3月21日に、東洋大学白山校舎において、「英語授業力向上のための教師の研修」をテーマとして、英語教育の実践研究セミナーを開催した。参加者52人。講演4件。パネルディスカッション1件。

2号事業報告：

(1) 『紀要』の刊行

①平成20年10月27日に『JACET Journal』47号を刊行。掲載論文9件。

②平成21年3月23日に『JACET Journal』48号を刊行。掲載論文7件。

会員及び英語教育関係者等へ送付した。海外提携学会等へも送付し、日本の英語教育研究の最新情報を発信した。

(2) 『JACET通信』の刊行

①平成20年7月1日に『JACET通信』164号（英語版、印刷版およびWeb版）を刊行。

②平成20年10月1日に『JACET通信』165号（日本語版、印刷版およびWeb版）を刊行。

③平成20年11月1日に『JACET通信』166号（大会特集号）（日本語版、印刷版およびWeb版）を刊行。

④平成20年12月1日に『JACET通信』167号（英語版、印刷版およびWeb版）を刊行。

⑤平成20年12月1日に『JACET通信』号外号（社団法人化特別号）の刊行。

⑥平成21年3月1日に『JACET通信』168号（日本語版、印刷版およびWeb版）を刊行。

以上、平成20年度は特別号を入れて、合計6回の通信の刊行を行い、大学英語教育関連の情報発信に寄与した。

(3) 『大学英語教育学大系』全13巻（予定）の刊行準備

平成21年度中に第1巻等の刊行を予定して、平成20年度中に、出版社との出版準備打ち合わせ会議3回、正副会長等による検討会議1回、50周年記念刊行事業準備委員会4回開催され、各巻の内容構成の検討及び執筆者の選定等が行なわれた。

3号事業報告：

(1) 大学英語教育学会賞の表彰（学術賞・新人賞・実践賞）

平成20年9月11日の全国大会時に、大学英語教育学会賞の学術賞が、JACET英語辞書研究会編（2006）『English Lexicography in Japan』（大修館）に、また大学英語教育学会賞の実践賞には、JACET授業学研究委員会編（2007）『高等教育における英語授業の研究』（松柏社）にそれぞれ授与された。

(2) 関係学術団体への派遣

①RELC（Regional Language Centre）

平成20年4月21日から23日にシンガポールで開催された第43回RELC国際セミナーに本学会を代表する理事1名が出席し研究発表を行なった。大会参加の成果と報告は学会ホームページに掲載。

②KATE（The Korea Association of Teachers of English）

平成20年7月4日から5日に韓国釜山で開催されたKATE 2008 International Conferenceに本学会代表を1名派遣して、学術交流及び情報交換を行なった。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

③IATEFL（International Association of Teachers of English as a Foreign Language）

平成20年4月7日から11日に英国University of Exeterで開催された42nd ANNUAL INTERNATIONAL IATEFL CONFERENCE AND EXHIBITIONに本学会より学会代表者を1名派遣して研究発表と学術交流を行なった。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

④ALAK（The Applied Linguistics Association of Korea）

平成20年12月6日に韓国ソウル大学において開催されたALAK 2008 International conferenceにおいて本学会より学会代表者を1名派遣し、学術交流を実施した。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

⑤ETA－ROC

平成20年11月14日から16日に台湾の台北市（Chien Tan Overseas Youth Activity Center）で開催されたThe Seventeenth International Symposium and Book Fair on English Teachingに本学会代表者1名を派遣して、学術交流を実施した。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

⑥MELTA（Malaysian English Language Teaching Association）

平成20年5月26日から27日にマレーシアのペナンで開催された第17回MELTA国際大会に本学会の代表者1名を派遣し、学術相互交流協定を締結した。その成果と報告は学会ホームページに掲載。

⑦AILA（国際応用言語学会）

平成20年8月23日から24日にドイツのエッセン大学で開催されたbusiness meetingに本学会

より代表者1名を派遣した（JACETの代表者として会議出席）。報告書は理事会に提出。

⑧PKETA（Pan-Korea English Teachers Association）

平成20年10月11日に韓国釜山国立大学校で開催されたPKETA大会に本学会代表者2名を派遣し、教育・学術交流を深めた。成果と報告はニューズレターに掲載。

4号事業報告：

(1) 全国レベルの調査研究

① ICT（Information/Communication Technology）調査研究

- a. 平成20年7月5日に開催された九州沖縄支部大会で「英語教育とICTによる国際交流—その可能性と課題—」をテーマとする講演会を実施。参加者150名。
- b. 平成20年9月13日の全国大会時に、「JACET-ICT特別委員会企画：中・高・大学でのICT活用授業について」のシンポジウムを開催。参加者数160名。
- c. 平成21年3月14日に、早稲田大学でワークショップを開催。「eラーニングにおけるNIMEの大学支援とUPO-NETによる教材配信」等をテーマとした。参加者70名。
- d. 平成21年3月14日に早稲田大学で、関東支部LET、FOLC-CCDLとの共催の研究会を開催。参加者70名。
- e. 平成21年3月31日に、2008年度『全国調査から見るICT教育—実践・評価・理論』2号を刊行。

成果としては、日本での協調や支援の実態を紹介できたこと及びMobile利用の調査実施等が挙げられる。

(2) 専門分野別の研究会活動

本学会には現在43研究会があり、各研究会はそれぞれの分野の調査研究を基盤として、会員の資質向上、書籍出版、教材開発、紀要等での論文発表などの活動を行なっている。そして、研究会担当委員会はそれらの各研究会の活動を支援している。その結果、本活動が会員・非会員相互の専門知識と技術の向上及び大学英語教育の発展にも寄与している。

5号事業報告：

(1) 諸会議の開催

①平成20年6月29日 社団法人設立準備理事会

の開催

②平成20年6月29日 社団法人設立総会の開催

③平成20年9月10日 平成20年度第1回定例理事会の開催

④平成21年3月22日 平成20年度第2回定例理事会の開催

⑤平成21年3月22日 平成20年度定例社員総会を開催

⑥定例運営会議の開催。毎月1回開催。年間合計12回開催。

⑦その他の臨時会議多数。

平成20年8月15日に文科省より正式に社団法人大学英語教育学会とされたが、年度途中での許可のため、任意団体から社団法人への移行に伴う様々な調整及び手続業務とそれに伴う予定外の雑務処理等で、会議時間と会議回数及び会議予算費用等が予想を超えるものとなった。しかし、学会全体の事業計画そのものは、社団法人化されたときに対応できるよう、年度当初から社団法人の申請計画に沿って実施されたため、大きなズレを生じることなくほぼ年度計画通りに実施することが出来た。

以上をもってご報告と致します。

社団法人 大学英語教育学会 第1期
平成20年度収支計算書

(平成20年8月15日から平成21年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	予 算 額	決算額	差異	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
①基本財産運用収入				
基本財産運用収入	46,579	46,579	0	
②会費収入				
会費収入	4,859,000	4,765,000	94,000	
③大会収入				
大会参加費収入	4,378,000	4,319,000	59,000	
大会展示料収入	1,836,000	1,836,000	0	
広告料収入	838,000	848,000	△ 10,000	
④事業収入				
印税・原稿料収入	720,325	981,220	△ 260,895	
書籍販売収入	163,000	190,300	△ 27,300	
⑤基本財産収入				
基本財産寄附収入	20,000,000	20,000,000	0	
⑥運用財産収入				
運用財産寄附収入	10,000,000	10,000,000	0	
寄附金収入	38,063,927	38,063,927	0	
⑦雑 収 入				
受取利息収入	26,735	36,843	△ 10,108	
その他	606,515	687,493	△ 80,978	
事業活動収入計 (A)	81,538,081	81,774,362	△ 236,281	
2 事業活動支出				
[1] 事業費支出 (小計)	18,946,030	19,064,874	△ 118,844	
(1) 大会セミナー等事業				
大会運営費	3,988,216	4,056,392	△ 68,176	
セミナー費	1,215,563	1,124,993	90,570	
通信費	783,369	787,109	△ 3,740	
印刷費	1,351,352	1,576,672	△ 225,320	
出張費	53,660	3,660	50,000	
(2) 出版物刊行事業				
50周年記念刊行事業費	383,602	474,522	△ 90,920	
通信費	2,169,407	2,174,640	△ 5,233	
印刷費	4,829,431	4,774,947	54,484	

(単位：円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異	備 考
(3) 表彰協力事業				
国際交流費	120,275	120,275	0	
JACET 賞	167,704	167,704	0	
AILA 加盟料	170,188	170,188	0	
(4) 調査研究事業				
特別委員会費	2,000,000	2,101,193	△ 101,193	
(5) その他事業				
会議費	1,360,592	1,135,487	225,105	
通信費	352,671	397,092	△ 44,421	
[2] 管理費支出 (小計)	10,401,310	10,349,597	51,713	
人件費	4,763,596	4,765,937	△ 2,341	
社会保険料	327,906	281,265	46,641	
租税公課	244,641	57,459	187,182	
事務所経費	2,780,809	2,890,578	△ 109,769	
支払手数料	2,254,750	2,324,750	△ 70,000	
雑費	29,608	29,608	0	
事業活動支出計 (B)	29,347,340	29,414,471	△ 67,131	
事業活動収支差額	52,190,741	52,359,891	△ 169,150	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
① 特定資産取崩収入				
特定預金取崩収入	2,552,082	2,552,082	0	
② 運用財産繰入収入	3,500,000	3,500,000	0	
投資活動収入計 (C)	6,052,082	6,052,082	0	
2 投資活動支出				
① 特定資産取得支出				
退職給付引当資産取得支出	200,000	200,000	0	
特定預金取得支出	25,000,000	25,000,000	0	
② 基本財産繰入支出	20,000,000	20,000,000	0	
③ 運用財産繰入支出	10,000,000	10,000,000	0	
投資活動収支計 (D)	55,200,000	55,200,000	0	
投資活動収支差額	△ 49,147,918	△ 49,147,918	0	
III 予備費支出 (E)	0	0	0	
当期収支差額 (A)-(B)+(C)-(D)-(E)	3,042,823	3,211,973	△ 169,150	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	3,042,823	3,211,973	△ 169,150	

財産目録

平成 21 年 3 月 31 日現在

社団法人 大学英語教育学会

(単位：円)

勘定科目	金額	
I 資産の部		
1 流動資産		
(1) 現金預金		
現金	283,582	
普通預金	5,535,891	
	現金預金小計	5,819,473
(2) その他の流動資産		
未収金 書籍販売未収金	153,498	
たな卸資産 販売用書籍	1,571,625	
立替金 雇用保険	15,624	
	その他流動資産合計	1,740,747
	流動資産合計	7,560,220
2 固定資産		
(1) 基本財産		
定期預金	20,000,000	
	基本財産合計	20,000,000
(2) 運用財産		
定期預金	6,500,000	
	運用財産合計	6,500,000
(3) 特定資産		
退職給与引当預金	200,000	
特別委員会等積立預金	22,447,918	
	特定資産資産合計	22,647,918
(4) その他固定資産		
備品 TV会議システム他	685,651	
	その他固定資産合計	685,651
	固定資産合計	49,833,569
	資産合計	57,393,789
II 負債の部		
1 流動負債		
未払費用 印刷代他	2,674,402	
預り金 源泉所得税、社会保険料	61,420	
未払法人税等 未払税金	40,800	
	流動負債合計	2,776,622
	負債合計	2,776,622
	正味財産	54,617,167

会計監査

2008年度の社団法人大学英語教育学会（第1期）会計収支決算につき帳簿その他関係書類を監査しましたところ正確、適正であると認めます。

平成 21 年 5 月 27 日

監事 矢野 裕 工

監事 橋 忠 男

支部便り

〈九州沖縄支部〉

第3回支部紀要編集委員会

日時：9月1日（土）11:00～

場所：西南学院大学学術研究所

第5回支部役員会

日時：9月1日（土）13:30～15:30

場所：西南学院大学学術研究所第1会議室

議題：

- (1) 支部紀要の販売価格について
- (2) 秋季学術講演会について
- (3) 50回記念大会について
- (4) 第24回支部研究大会について

第91回東アジア英語教育研究会

（日本語テスト学会との共催）

日時：9月26日（土）13:00～17:40

場所：西南学院大学1号館205教室

小講演：「韓国における英語教育の過去・現在・未来」木下正義（西南学院大非常勤）

研究発表：「四技能を融合した英語指導法：ディベートを使って情報収集・分析・発信力を高める」ペニントン和雅子（西南学院大）

「日本人中学生の英語学力と学習意欲：教育実習校で得たデータを分析し解釈する！」郷原光華（西南学院大4年）

「英語の接尾辞-ableの意味拡張現象に関する実証的研究の試み」神崎沙織（西南学院大4年）

ワークショップ：「wh疑問文って難しいの？みんなで一緒に考えようよ！」伊藤彰浩（西南学院大）・岩崎亜里沙・手島亜希子（西南学院大4年）

PKETA国際大会への派遣

日時：10月10日（土）9:00～17:30

場所：釜慶国立大学校（韓国）

派遣者：林日出男（熊本学園大）・石井和仁（福岡大）

第92回東アジア英語教育研究会

日時：10月17日（土）15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205教室

発表者：ディム美樹（Miki Diem）（九州産業大・久留米大非常勤）・デリントダルシー（Darcy de Lint）（九州産業大）

発表題目：短期海外研修参加者によるコミュニケーションジャーナルからの一考察―「コミュニケーションストラテジー」と「ポライトネスストラテジー」事前指導の可能性―

第6回支部役員会

日時：11月7日（土）13:00～15:00

場所：西南学院大学学術研究所大会議室

議題：

- (1) 支部内規案について
- (2) 支部紀要内規について
- (3) 支部ニューズレター No.26について
- (4) その他

秋季学術講演会

（LET九州・沖縄支部との共催）

日時：11月7日（土）16:00～17:30

場所：西南学院大学2号館304教室

講演者：小林美代子（熊本大）

発表題目：いま言語評価を考える

第93回東アジア英語教育研究会

日時：11月21日（土）15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205教室

発表者：三浦秀松（徳島文理大）

発表題目：未定

11月30日（月）

九州・沖縄支部紀要 *Annual Review of English Learning and Teaching* No.14 発行

第94回東アジア英語教育研究会

日時：12月19日（土）15:30～17:30

場所：西南学院大学1号館205教室

発表者：石川慎一郎（神戸大）

発表題目：未定

第7回支部役員会（予定）

日時：1月9日（土）13:00～16:00

場所：西南学院大学学術研究所第1会議室

第95回東アジア英語教育研究会

日時：1月23日（土）15:30～17:30
場所：西南学院大学1号館205教室
発表者：原隆幸（明海大）
発表題名：未定

第8回支部役員会（予定）

日時：2月6日（土）13:00～15:00
場所：西南学院大学学術研究所第1会議室

第2回 第50回記念国際大会地元実行委員会（予定）

日時：2月13日（土）15:30～17:00
場所：西南学院大学学術研究所第1会議室

第96回東アジア英語教育研究会

日時：2月20日（土）15:30～17:30
場所：西南学院大学1号館205教室
発表者：古村由美子（九州大）
発表題名：未定

第9回支部役員会（予定）

日時：3月13日（土）
場所：西南学院大学学術研究所第1会議室

第97回東アジア英語教育研究会

日時：3月20日（土）15:30～17:30
場所：西南学院大学1号館205教室
発表者：水島孝司（南九州短期大）
発表題名：未定

（志水俊広・九州大学）

〈中国・四国支部〉

1. 四国ブロック研究会（アクションリサーチ研究大会との共催）

時間：2009年10月31日（土）
場所：松山大学

大会テーマ：「授業改善のためのアクション・リサーチの在りかたー小学校から高等学校まで」

(A) 研究発表

1. 「小学校外国語活動ー授業改善を目指した教員研修の取り組み」吉見香奈子（松山市立番町小）
2. 「中学校におけるアクション・リサーチの取り組みー授業の省察から」徳安尚子（美須賀中）
3. 「アクション・リサーチによる授業改善の取り

組み」宮内朋子（松山工業高）

(B) 講演

「教員研修・養成におけるアクション・リサーチの意義とその在りかた」佐野正之（松山大）

(C) パネルディスカッション

「授業改善のために教師が心がけておくことーPDCAサイクルの盲点」

コーディネータ：金森強（松山大）

パネリスト（順不同）長崎政浩（高知工科大）、鈴木基廣（愛媛県教育委員会）

2. 広島・山口・島根ブロック研究会

日時：2009年11月7日（土）10:00-14:20
場所：広島市立大

(A) 研究発表

1. 「TOEIC試験の妥当性と信頼性：大学英語教育への示唆」尊田望（山口大）
2. 「プレースメントテスト」を検証するー言語テストの観点から」吉田弘子（大阪経済大）
3. “Japanese EFL Learners’ Perceptions of Difficulty and Actual Performance on Academic Reading Tasks”, Mariela Iurascu and Kenneth Fordyce (Hiroshima Univ.)

(B) 講演

「英語力を育てる教材」山田雄一郎（広島修道大）

3. 中国四国支部役員会

日時：2009年11月7日（土）12:00-13:00
場所：広島市立大

審議事項：

- 1) 平成22年度支部活動案
- 2) 平成22年支部予算案
- 3) 平成22年度支部人事
- 4) その他

報告事項：

各委員会から

4. 第1回Oral Presentation & Performance (OPP) 研究会

日時：2009年11月7日（土）14:00-17:30
場所：広島市立大学

1. 「秘書科 ミュージカル」(20名) 橘野（大館）実子（安田女子短期大）
2. 「会話スキット」(2-4名) と「発表」(2-4名) Bill Moore（広島国際学院大）

3. 「英米言語文化学科 3-4 名の 1 グループによるプレゼンテーション発表」「幼児教育心理学科 3-4 名の 1 グループによる英語絵本の発表」貫名緑 (女学院大)
4. 「人間文化学部・国際文化学科 英語の歌とスピーチ」(3 名) 上斗 (船津) 晶代 (県立広島大)
5. 「アメリカ大統領演説の暗唱発表コミュニケーション学科・診療放射線学科」(3 名) 三宅美鈴 (広島国際大)
6. 「外国人を対象とした調査の発表」(9 名) “A-Bombed Tree” (4 名) 岩井千秋 (広島市立大)

5. 岡山・鳥取ブロック研究会

日時：2009 年 11 月 21 日 (土)

場所：岡山大

(鳥越秀知・香川高専)

〈関西支部〉

1. 支部大会

平成 21 年度関西支部秋季大会

テーマ：「英語教育を学際的視野からとらえる—認知・心理・社会言語学からのアプローチ—」

日時：平成 21 年 11 月 28 日 (土)

場所：近畿大学

(1) コロキアム 1

スローラーナーの実態と指導法について考える
前田和彦、加賀田哲也、小磯かをる、津村修志 (大阪商業大)

(2) コロキアム 2

Improving the English Learning Environment for Japanese Students

Alison Kitzman, Thomas Koch, Kaori Nitta (Kinki Univ.)

(3) ワークショップ 1

Multiple Intelligences at Work in Language Lessons

Greg Rouault (Kwansei Gakuin Univ.)

(4) ワークショップ 2

改訂ライティンググループリククの検証：教室での使用を目指して

正木美知子 (大阪国際大)、久留友紀子 (愛知医科大)、山西博之 (関西外国語大短期大学部)

(5) 研究発表 1

企業の技術系社員の英語使用実態に対する工学系

大学 (院) 生の認知度と関心

照井雅子 (大阪大院生)

(6) 研究発表 2

学習者コーパスに見る使役動詞 make の使用の現状

井上聡 (神戸大院生)

(7) 研究発表 3

モダリティの違いが日本人英語学習者の統語産出に与える影響

森下美和 (神戸学院大)

(8) 研究発表 4

パラグラフ・ライティング授業における学生の評価制度：田中美和子 (京都ノートルダム女子大・非)

(9) 研究発表 5

Corrective Feedback and Its Effects on Research Paper Writing and Presentation

Naomi Kamimura Backes, Keiko Hattori, Julia Walhelm (Kinki Univ.)

(10) 研究発表 6

授業改善につながるピア観察項目と自己改善を可能にするポートフォリオの考察

村上裕美 (関西外国語大短期大学部)

(11) 実践報告 1

English Proficiency of Natural Science Majors in a Competitive University — Observation from Classes

Arno Suzuki (Kyoto Univ.)

(12) 実践報告 2

Teaching Pronunciation to Students of Dentistry
Junichi Fujita (Osaka Dental Univ.)

(13) 実践報告 3

学習意欲を高める参加型 TOEIC クラスの授業展開例

フィゴニ啓子 (武庫川女子大・非)

(14) 実践報告 4

習熟度の低い学生に対するプロットの力を活用した速読指導

杉村醇子 (広島工業大)

(15) ポスター発表

Mapping Language Use in Pedagogic Activity with Dynamic Systems Theory

Mark Taylor (Hyogo Prefectural Univ.)

(16) 全体シンポジウム

「英語教育を学際的視野からとらえる—認知・心理・社会言語学からのアプローチ」：モデレーター

横川博一（神戸大）

パネリスト：瀬戸賢一（大阪市立大）、日野信行（大阪大）、横川博一（神戸大）

2. 講演会

第1回支部講演会

文学教育研究会企画シンポジウム「英語教育における文学教材の可能性」

日時：2009年7月25日（土）

場所：キャンパスプラザ京都

司会：松本真治（佛教大）

講師：松田早恵（摂南大）、吉村俊子（花園大）、奥村真紀（京都教育大）、坂本輝世（同志社大・非）

第2回支部講演会

英語力指標研究会企画シンポジウム「小学校外国語活動と大学教育との接点を求めて～教員養成の現状と展望～」

日時：2009年10月3日（土）

場所：神戸国際会館

司会：牧野真貴（関西国際大）

発表者：田邊義隆（近畿大）、辻伸幸（和歌山大学附属小学校）、相川真佐夫（京都外国語短大）

助言者：野口ジュディ（武庫川女子大）、フィゴニ啓子（武庫川女子大）

第3回支部講演会

日時：2010年3月6日（土）

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス（予定）

3. ニュースレター

47号 2009年4月18日刊行

48号 2009年6月13日刊行

49号 2009年8月5日刊行

50号 2009年10月24日刊行

51号 2010年1月30日刊行予定

4. 関西支部紀要

『JACET Kansai Journal』12号 平成22年3月31日 刊行予定

（川越栄子・神戸市看護大学）

〈中部支部〉

1. 役員会

第4回役員会

日時：2009年7月11日（土）14:00－16:00

場所：名古屋工業大学 19号館 会議室

議題：

- (1) 理事会報告
- (2) 支部大会会計報告
- (3) 支部大会の総括と今後の方針
- (4) ニュースレター第22号原稿案確認
- (5) 支部紀要の業者選定

第5回役員会

日時：2009年10月17日（金）13:00～14:45

場所：南山短期大学

議題：

- (1) 財務・総務委員会報告
- (2) 支部長候補者推薦
- (3) 定例研究会講演者推薦
- (4) 講師謝礼について
- (5) ニュースレターについて
- (6) 研究企画委員推薦について

2. 定例研究会

日時：10月17日（土）15:00～16:30

場所：南山短期大学

講演：バラク・フセイン・オバマは世界をどう見ているのか

講師：中山俊宏（津田塾大）

3. 今後の予定

(1) 第23号ニュースレター発行予定 12月

(2) 定例研究会 12月19日

(3) 定例研究会 2月27日

（塩澤正・中部大学）

〈関東支部〉

1. 支部総会日程

第二回：12月19日（2010年度事業計画について、支部長選挙）

早稲田大学西早稲田キャンパス

16号館3階308教室

2. 支部合同会議日程

広 告

9月19日 JACET本部事務所
11月21日 JACET本部事務所
1月16日 (予定、場所未定)
2月20日 (予定、場所未定)
3月20日 (予定、場所未定)

3. 研究会活動

[月例研究会]

日時：10月17日(土) 17:00-18:00

会場：旺文社ビル 英教会議室

発表者：西蔭浩子(大正大)

タイトル「日本語を利用した英語教育のこころみ
—NHK教育テレビ『英語が伝わる！100のツボ』
より」

日時：12月19日(土) 17:00-18:00

会場：早稲田大学西早稲田キャンパス 16号館3
階308教室

発表者：石原紀子(法政大)

演題：状況に適切な言語表現の指導を考える
(Addressing Pragmatics in Language Learning)

*12月以降の月例研究会の詳細は関東支部HP上
に掲載されますので、そちらをご覧ください。また、平成22年3月20日にも月例研究会が予定されております。こちらの情報も関東支部HPをご覧ください。

[特別講演会]

日時：11月14日(土) 17:00-18:00

発表者：Dr Emmanuel Manalo(オークランド大)

4. 関東支部大会

2010年度関東支部大会を2010年6月27日(日)
に東海学園大学本郷キャンパスにて開催予定で
す。発表の申し込み等に関しましては、手紙、関
東支部HP上等においてお知らせいたします。

*またその他の情報も随時関東支部HPに掲載予
定ですのでご覧ください。(URL：<http://www.jacet-kanto.org/>)

(上田倫史・目白大学)

〈東北支部〉

1. 東北支部7月役員会

日時：7月4日(土) 12:00-13:00

会場：エル・ソーラ仙台

東北支部7月役員会がエル・ソーラ仙台で開催
された。以下の点について協議された。

- 1 12月支部役員会・例会について
- 2 『JACET東北支部通信』No.36について
- 3 2010年9月の全国大会について
会場校(宮城大学)・懇親会会場について現
在調整中。準備委員会の開催を予定。
- 4 JACET賞担当委員について
- 5 その他
2010年度の支部推薦の社員、役員について
2010年度の社員総会(6月・3月)について
次年度の研究企画委員について

2. 東北支部総会・大会

日時：7月4日(土) 13:00-17:00

場所：エル・ソーラ仙台 研修室2(仙台AER 28
階)

東北支部総会および支部大会がエル・ソーラ仙
台で開催された。本部代表幹事・言語教師認知研
究会代表の笹島茂先生をお迎えし、総会・支部大
会ともに質疑応答が活発に行われ、来年の全国大
会につながる充実した会となった。大会テーマお
よび行われた研究発表・シンポジウムは次のとお
り。

大会テーマ：英語教育における学習者と教師の成
長

研究発表

- (1) 草薙優加(秋田県立大) "Seeding Learner
Autonomy by Montage Activities: A Report
from a University English Conversation Course"
- (2) 倉内早苗(青森公立大) "Fostering Students'
Leadership through Group Activities: Am I a
Good Leader?"

シンポジウム(自律学習研究会・言語教師認知研
究会の共同実施)

テーマ：英語教育における学習者と教師の成長

司会：小嶋英夫(弘前大)

話題提供：

笹島茂(埼玉医科大) 言語教師認知における
教師と学習者の関係

西野孝子(法政大) 教師の学びと「実践コミュ

ニティー」

小嶋英夫（弘前大） 学習者と教師の自律的成長

3. 今後の予定

支部12月役員会が12月5日（土）12:00-15:00に開催される。併せて支部12月例会が同日15:00-17:00に開催される。『JACET東北支部通信』No. 36とTOHOKU TEFL（JACET東北支部紀要）Vol. 3が2010年3月に発行される予定となっている。

（岡崎久美子・仙台高専）

〈北海道支部〉

1. 研究会の開催

2009年度第2回研究会

日時：2009年8月1日（土）13:50～14:30

場所：北海学園大学

研究発表：「小規模事業所の海外取引に関わる実務英語の事例研究—商談会における英語使用の問題点—」（JACET北海道支部ESP研究会：内藤永・旭川医科大、坂部俊行・北海道工業大、柴田晶子・専修大北海道短期大学、竹村雅史・北星学園大短期大学部、三浦寛子・北海道工業大、山田恵・北海道薬科大、吉田翠・ESP北海道顧問、渡辺真美・東海大）

2. 支部総会の開催

2009年度北海道支部総会

日時：2009年8月1日（土）13:30～13:50

場所：北海学園大学

報告：支部長報告、幹事報告、各種委員会報告、その他

議題：2008年度活動・会計報告、2009年度事業計画・予算案、2010年度事業計画・予算案、2009年度人事案、2010年度人事案、その他

3. その他

a) 2009年度第2回支部役員会

日時：2009年11月21日（土）

場所：北海道大学

議題：支部長選挙開票、役員承認、その他

b) 2009年度第3回北海道支部研究会

日時：2009年12月19日（土）

場所：北海道大学

開催時刻その他詳細は未定

c) 2009年度第4回北海道支部研究会

日時：2010年1月30日（土）

場所：北海道大学

開催時刻その他詳細は未定

（尾田智彦・札幌大学）

国際交流委員会からのお知らせ

国際交流委員会は提携学会に学会員を派遣し、学会間の国際交流を図っています。今年6月には、MELTA（マレーシア）の年次大会に木村みどり先生（東京女子医科大）を派遣致しました。

派遣者の報告書はJACETのweb siteに載せていますが、紙媒体であるニューズレターに掲載することで、より多くの会員の皆さんに読んでいただきたいと思えます。

国際交流委員会

担当理事・山内ひさ子（長崎県立大学）

委員長・相川真佐夫（京都外国語短期大学）

The 18th MELTA International Conference 2009, Johor Bauru, Malaysia 11-13 June, 2009

2009年6月11日から13日にかけて開催されたMELTA国際学会に、JACETを代表して参加させていただいた。テーマは、Aligning Teaching and Learning: Effective Methodologies in English Language Educationで、会場は多くの教育熱心な教師たちで埋め尽くされていた。この学会では、私が今まで参加した国際学会にはない独特の印象深い事が数点あったので、それを紹介する。

まず第一に、開会式でコーランが読み上げられ、国歌と州歌斉唱で始まったことである。第二に、Raja Zarith王女様がこのMELTAの学会のパトロンであるということから、30分間美しいQueen's Englishで、マレーシアの英語教育の在り方についてレクチャーをなさったことだ。王女様は、毎回この学会で話されるということであるが、今回

は「自国の経済発展のためには英語の能力が不可欠であること、そして、英語で教育を受けること、英語を公用語とすること、はマレー人としてのアイデンティティを失うことではない」ということをご自分のイギリスでの生活の例も取り上げながら、力説された。これに関連して、第三の点は、マレーシアでは英語が公用語になっているため、参加者はマレーシア人同士であっても全員が英語でコミュニケーションを取っていたことだ。「英語が公用語」という点を裏付ける事として、最近英語教育に大変力を入れている韓国では、安近短の留学先としてマレーシアに学生たちを送りこんでいるのだ。私は、マレーシアの英語力と韓国の教育熱心さに少なからずショックを受けた。第四は、子供の英語教育に力を入れているので、学会に児童が招かれて英単語コンテストをやっていたこと。研究と教育現場が近いと強く感じた。そして、第五は、第四の点に関連してゲストスピーカーが二回にわたり「英語によるお話の語り聞かせ」を取り上げていたことだ。

第二言語としての英語教育の見本をこの学会に見たような気がした。また、この学会に参加して英語教師としての原点に気付かされた。是非、多くのJACET会員がMELTAに参加し、マレーシアの英語教育とその熱心な教育姿勢から多くの気づきを得てほしいと思う。

(木村みどり・東京女子医科大学)

セミナー事業委員会からのお知らせ

第19回JACET春季英語教育セミナーを以下の通り開催いたします。詳しくは2010年1月にJACET ウェブサイトに掲載されます案内をご覧ください。

《第19回JACET春季英語教育セミナー》

日 時：2010年3月22日(月)

10時～17時半(予定)

会 場：早稲田大学11号館4階大会議室

テーマ：教員の資質向上のための自律的研修

セミナー事業委員会

担当理事・石田雅近(清泉女子大学)

委員長・河内山晶子(明星大学)

訃報

本学会会員 笹田巖先生(東京学芸大学附属高校大泉校舎)が2009年7月25日にご逝去されました。享年52歳。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訃報

本学会会員 渡邊容子先生(群馬県立健康科学大学・関東支部研究企画委員)が2009年8月26日逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編集後記

本号では、海外提携学会RELC(シンガポール)のDr. Chan Yue Wengに多大なご協力を頂きました。心より感謝申し上げます。また、中部大学の塩澤正先生、松原勝子先生、名古屋外国語大学非常勤講師のムーディ美穂先生、中京大学の吉川寛先生にも、お忙しい中記事をご執筆いただきました。厚く御礼申し上げます。

広報通信委員会

編集委員

理 事 寺内 一・高千穂大学
委員長 大須賀直子・明治大学
副委員長 田口悦男・大東文化大学
木村みどり・東京女子医科大学
遠藤雪枝・明治大学・非
Robert Hamilton・明治大学
Maggie Lieb・明治大学

2009年12月1日発行

発行者 社団法人 大学英語教育学会(JACET)

代表者 森住 衛

発行所 〒162-0831 東京都新宿区横寺町55

電話(03)3268-9686

FAX(03)3268-9695

http://www.jacet.org/

印刷所 〒228-0021 座間市緑ヶ丘3-46-12

有限会社 タナカ企画

電話(046)251-5775